

# 抑制栽培キュウリにおける減農薬特別栽培に準じた病害虫総合防除体系（例）

時期	7月		8月		9月		10月		11月		12月	化学合成農薬の有効成分数					
	中	下	上	下	上	中	下	上	中	下	終了						
栽培作業	定植前の準備		定植		収穫開始				保温開始		終了						
基幹防除	近紫外線除去フィルム		灰色かび病の胞子形成を抑制、アザミウマ類、コナジラミ類の侵入抑制														
* 物理的防除	目合い0.4mm 防虫ネット		サイド以外にも天窓等の開放部分すべてに設置														
* 耕種的防除	害虫の発生源となる圃場内外の除草		褐斑病耐病性品種（ちなつ等）														
* 生物的防除					スワルスキーカブリダニ放飼（25,000～50,000頭/10a）		* スワルスキーの増殖を促すため7～10日間は全ての農薬散布を控える										
化学的防除	虫害	アザミウマ類			*アザミウマ発生の場合 アフームEC		*アザミウマ発生の場合 アフームEC				3						
		コナジラミ類			*コナジラミ発生の場合 コルトWDG		*コナジラミ発生の場合 コルトWDG										
		アブラムシ類			同時防除		コルトで同時防除										
		ハモグリバエ類 ダニ類、ヨトウ類			ハモグリは同時防除		ハモグリとヨトウはアフームで同時防除		アブラムシ類：チェスWDG ハダニ類：スターマイトFL								
		ネコブセンチュウ	太陽熱消毒、前作で発生が認められた場合、ネマキックG														
病害	うどんこ病 褐斑病 べと病 灰色かび病・菌核病			イオウFL スワルスキー放飼後の散布は控える		ダコニールFL 同時防除 フルピカFL 同時防除		ベルコートFL 同時防除		アフェットで同時防除		3					
						同時防除		同時防除		ランマンF		0					
						同時防除		同時防除		アフェットFL		1					
						同時防除		同時防除				1					
化学合成農薬の有効成分数				1		1		1		2		1		2		8	

注1) 果慣行の抑制栽培キュウリで使用される化学合成農薬の有効成分数は30成分。特別栽培（減農薬（果慣行の5割以下の成分数））に取り組む場合、育苗期から本園終了時までの化学合成農薬の成分数は15成分以内であり、到達目標は13成分以内である。そのため、播種～育苗期に使用する成分数を5成分として、防除暦内の成分数を8成分、総計13成分とした。なお、本体系は購入苗の定植を前提とする。育苗期に使用する農薬については購入先と協議して、化学合成農薬の成分数を5成分以内とする。

注2) 農薬の剤型 G: 粒剤、FL: フロアブル、WP: 水和剤、WDG: 顆粒水和剤、水溶剤、SG、EC: 乳剤。

注3) ■: 天然物等を有効成分とする薬剤、技術（非カウント剤・技術）、●・■: 化学合成農薬を有効成分とする薬剤（カウント剤）、■: カウント剤による隨機防除、■: 注意事項

注4) ネマキックG 15～20kg/10a、スタークルG 2g/株、アフームEC 2,000倍、プレオFL 1,000倍、コルトWDG 4,000倍、イオウFL 1,000倍、ウララDF 2,000倍、スターマイトFL 2,000倍、ダコニール1000（FL）1,000倍、フルピカFL 2,000倍、硫黄G 6～16g/2000m<sup>3</sup>（専用のくん煙器 例スーパーバースモーキーを12～15台/10a設置）、ベルコートFL 2,000倍、ランマンFL 1,000倍、アフェットFL 2,000倍